



驚くことと、感動することとは質的に異なるものだと思う。日常を振り返ってみると驚くことはあっても、感動することは意外にも少ないものだと気づかされるものだ。世界一や、日本一に、最初、最後と人間の想像を超えるような出来事であれば、新鮮さをも伴ってその驚きは大きいものだが、しかしその驚きは時間の経過と共にやがては過去のものとなり、薄らぎ消えてゆく運命にあるものなのだ。

それでは感動はと言えば、当たり前前の日常が、実は当たり前ではないことに気づいていくところにこそ生まれ出るものだ。そしてそこには必ずいのちと命の響き合いがあり、真実を見つめる眼が開かれているのだ。そしてそれはまた「南無阿彌陀仏」を最も身近に感じられる一瞬でもあるのだ。

目先の変化のみに心奪われ、日常の真実に目を背けて生きている私たちには、心からの感動は生まれ出てはこない。今この一瞬にもいのちは通り過ぎて行く。驚きばかりの人生を追いかけてはられないのだ。感動の今日ここにこそ、時を超え、思いを超えた喜びが生まれてくるものだと思う。

土徳の話

M・M

今年6月、岐阜別院の公開講座で、土徳（その土地にそなわる徳）のお話がありましたが、江戸時代中期、北陸門徒が育んだ土徳が、東北の地で見事花開いた様子を拝聴して、大変印象に残りましたので、おおまかですがお伝えしたいと思います。

江戸時代中ごろ加賀藩の農民を東北へ移住させる政策がとられました。これには深刻な事情がありました。天明年間（1782年）、東北はひどい冷害に見舞われ、きびしい飢饉に襲われます。相馬中村藩は8万9千人から3万7千人に人口が激減してしまい、米の生産を担う農業人口が極端に減少することになります。

そこで相馬藩は人口のゆたかな北陸農民の受け入れを考え、様々な手法で移住を画策しました。当時、農民の移動は御法度でしたから、移住は人目をしのぶ苦難の旅となりました。北陸農民はほとんどが真宗門徒でしたから、北陸農民と言えば実質真宗門徒でありました。

移住した北陸門徒は、深い他力信仰に支えられて、いかなる苦難にも耐え抜く不屈の精神力をそなえていました。地元農民の差別にも屈せず、みごと農村復興を成しとげ、相馬藩建て直しの基礎を築くことになりました。

当時、東北農民の間には藩の制止にもかかわらず広く間引き（子どもを減らす）がおこなわれており、人口減少の一因にもなっていました。北陸門徒は間引きのようならぬむじい行為は一切行わず、生まれる子はすべて慈しみ育てたので、人口増加を加速することになりました。

このように江戸時代中期に行われた移住政策は知らずとも北陸門徒のすぐれた土徳を顕彰する結果



秋の永代経勤まわりの

永代経は春と秋に、それぞれ一日、午前、午後の勤まります。

永代経とは「永代にわたってお経が読まれるという事で、永代経というお経があるわけではありません」。今年の永代経は春に御遠忌をお勤めした関係で、秋だけのお勤めとなりましたが、四十名以上の「門徒のお参りがあり、「ご先祖（諸仏）を偲びながら仏法に耳を傾けていただきました」。

お昼には御遠忌法要の様子を森光明さん提供のDVDで観ていただきました。皆さんお一人お一人の関わりが深かったことから、改めて感慨深く観ていただくことができたと思います。報恩講にも、もう一度観ていただこうと思っておりますので、ぜひご参詣ください。

午後には住職が法話をさせていただきます。

9月23日(月)
秋分の日

仏華は坊守が生けます。ご覧のように花瓶（かひん）の5倍ほどの高さの花木を使いますが、有志の方に毎回お気いただいております。大変助かっております。



皆様のご先祖の法名軸です。光受寺門徒全ての合同で行う、ご法事と捉えてもらっていいのです。

きました。

家族葬と呼ばれる葬儀のあり方についてと、ご法事を通しての私たちの心の持ち方についての話をさせていただきます。

「弔う」とは「訪う」こと、先祖（諸仏）を訪ね、私のあり方を問うて行く歩みが続けていくことが、お仏事をするこの、諸仏からの大切な願いであります。永代経は、またご法事は決して故人への追善供養（死者の冥福を祈って行う供養）ではありません。真宗ではむしろ逆に私たちが先祖から願われている存在だと受け止めているからです。

これから年末にかけての行事の予定

学習会

十月十二日(土) 午後七時より

「お文に学ぶ」 第四帖 第一通予定

十一月九日(土) 午後七時より

「お文に学ぶ」 未定

十一月はお休みです。



報恩講

十二月八日(日) 〇 十時

門信徒総会 同日 午後二時

お磨き・・・十二月二日(月)か三日(火) 予定

これ彼岸花？ なんぞです。

皆さんの中には、白い彼岸花を見られた方もおありでしょうが、私には生まれて初めての出会いでした。この一時に出合えたことは、幸せさを感じてしまうほどでした。インターネットで見ると、このほかにピンクや黄色などもあると知って驚きはしましたが、ひっそりと人目を避けるように咲いていたこの白い花の美しさはしっかりと脳裏に焼き付いてしまいました。



九月二十四日(火)

永代経が勤まった翌日。

明台寺さんの境内から土手を見上げてみたら周りの草木に埋もれるように・・・。

記事募集 記事がなくて困っています。内容は問いませんので、ぜひご協力ください。匿名希望でも結構ですので、お気軽にお声がけをしていただければと思っています。